

畜産会 経営情報

主な記事

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ① セミナー経営技術
担い手の確保のために | 菊川 洋一 |
| ② 明日への息吹
石賀牧場の経営の歩み | 築山 伴文 |
| ③ あいであ & アイデア
垂木を使った牛床のふん尿分離 | 清水 誠 |
| ④ 牛肉・豚肉、子牛市況 | |

社団法人 中央畜産会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目26番5号
虎ノ門17森ビル(15階)
TEL.03-3581-6685 FAX 03-5511-8205
URL <http://jlia.lin.go.jp/>
E-mail: jlia@jlia.jp

セミナー

経営技術

担い手の確保のために

菊川 洋一

はじめに

現在、全国においても、また、本県（広島県）においても畜産農家戸数、家畜頭羽数の減少がみられます。

また、農家戸数の減少と併せて、昨今の市町村の合併等により、地域において畜産農家の孤立化も懸念されます。

本県の場合、基幹的農業者の高齢化率は全国3位と高くなっており、今後、本県の畜産生産基盤の維持、拡大を図るには、後継者・新規就農者の確保、畜産への新規参入、経営の法人化、ならびに円滑な経営移譲のための

環境づくりが不可欠です。

そこでこのたび、地方競馬全国協会の助成を受け、本県畜産の将来を担う幅広い人材の確保に努めるため、後継者に関する基本調査、畜産法人を対象とした労務関係基本調査、および農業高等学校等の在校生を対象とした意向調査を実施したので、その概要を紹介します。

後継者育成支援 基本調査結果

調査対象件数は家族経営1210件（酪農経営230件、肉用牛経営935件、養豚経営35件、養鶏経営10件）に対し、720件（酪農経営73件、

ご案内：本誌は上記URLにアクセスして下されば、インターネットでご覧いただけます。

肉用牛経営601件、養豚経営15件、養鶏経営4件、廃業18件、畜種不明9件)の回答を得ました。

なお、1戸法人については家族経営とみなし、この調査に含めています。

全体の回収率は59.5%と、この種の調査では比較的高い回収率を得ることができ、中でも肉用牛経営では64.3%の回答をもらい、肉用牛経営者自身においても本県肉用牛の将来に対しての関心の高さがうかがえました。

なお、経営主の年齢の構成は図1の通りで、肉用牛経営の高齢化が顕著にみられます。

後継者の現況については、「既に経営に参加」および「就農予定」の割合(「中学生以下」および無回答の回答数を除く)が34%、

一方、「後継者はいない」の回答は22%で、約半数の経営で現状においては将来の後継者の経営参加は未定となっています。

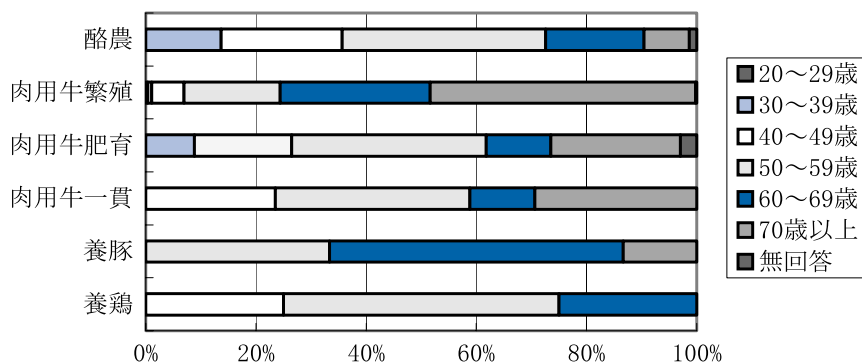
また、近い将来、後継者の確保が必要と思われる経営主年齢が50歳以上の階層での後継者確保の状況は約40%に過ぎません。

後継者に対する経営主の意向は図3の通りで、いずれの経営においても後継者自身の意向を尊重する回答が多くみられましたが、「後は継がせたくない」という意見も酪農経営で16%、肉用牛繁殖経営で5%、肉用牛肥育経営で6%、肉用牛一貫経営で17%、養鶏経営で75%みられました。

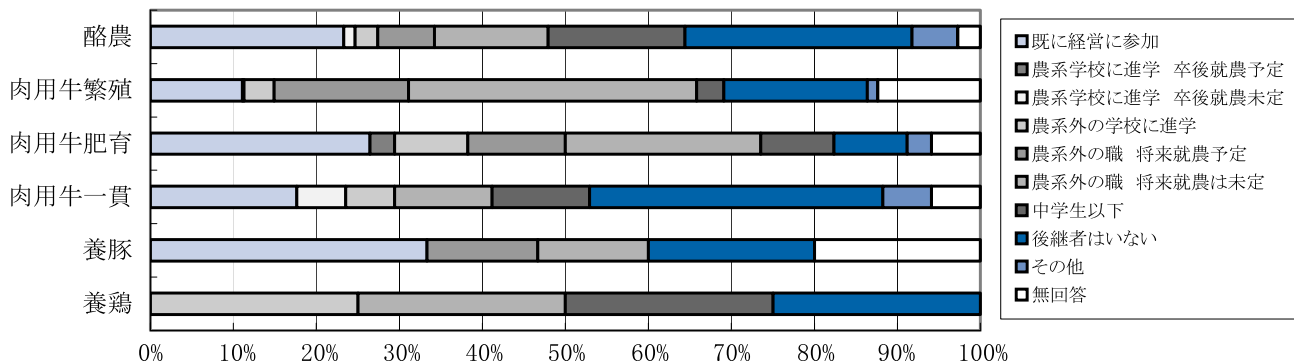
この後継者の就農(経営参加)を阻害している要因は、各畜種により意向の違いはみら

れましたが、最も多く寄せられた阻害要因は、酪農経営、肉用牛肥育経営(一貫経営を含む)、養豚経営、養鶏経営においては「休みがとれない」ことでしたが、肉用牛繁殖経

(図1) 経営主の年齢



(図2) 後継者について



営では「他の産業に比べ収益が低い」が最も多い42%を占めており、とくに比較的小規模階層にこの傾向が強く、肉用牛繁殖経営の構造的な背景が見受けられました。

「後継者はいない」との回答者の今後の経営方針については、「自分の代で経営を中止する」との回答が19%寄せられ、何らかの対策が講じられなければ、近い将来、約2割の畜産農家戸数の減少が迫ってきています。

また、無回答が相当数寄せられたのは、選択肢のない現状を反映していることと思われます。

一方、「条件次第では農場の譲渡あるいは賃貸借したい」との回答数は4%しかみられ

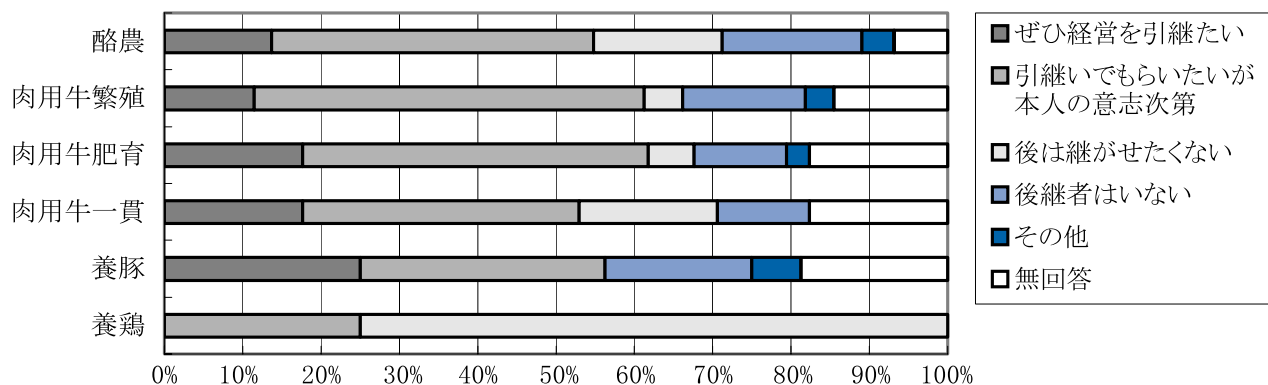
ず、経営者の意識として、他人への譲渡等が一般的ではないことがうかがわれました。

このことから、農場の譲渡、賃貸借を流動化させる何らかの有効な施策が必要と思われます。

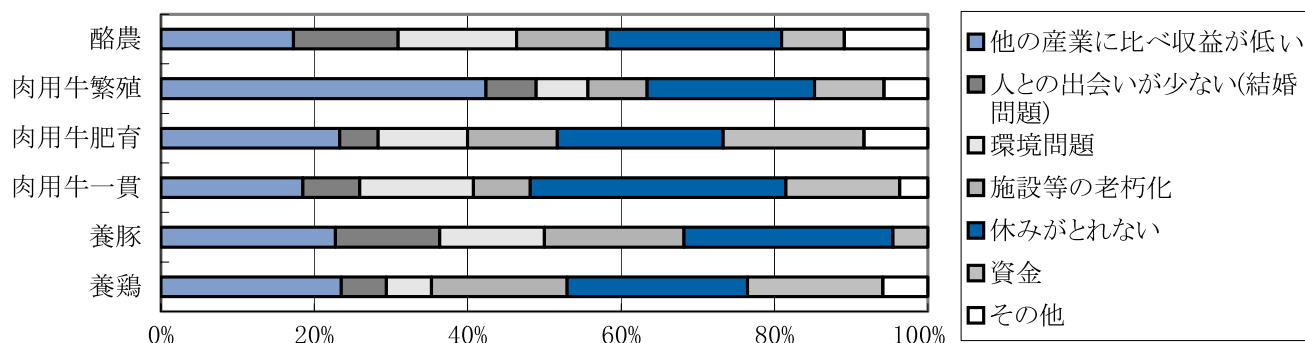
畜産経営者として、今後の担い手確保の対策として多くの率直な意見も寄せられましたが、中でも特徴的な意見を紹介します。

「農業人口の減少とともに、農業施設や農地の未利用は今後ますます増える。譲渡したい者は譲渡の条件を明確にし、公的機関が一度買い取ることが良いと思う。新規就農者の窓口に関わる人は、失敗しないためにも厳しい審査などを設け、吟味することが必要であ

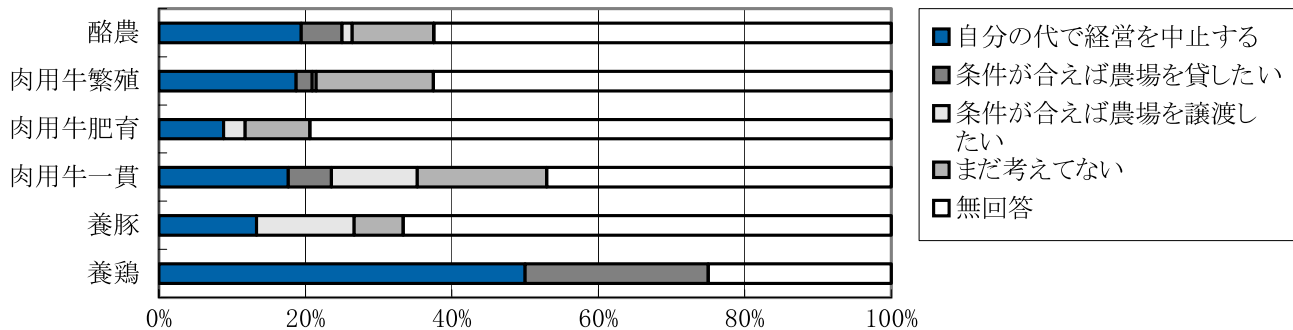
(図3) 後継者に対する考え



(図4) 就農の阻害要因



(図5) 今後の経営について



る」(酪農経営)

「畜産農家の後継者を育てるということにごodawらず、田舎志向の若者や中高年も多いこのごろ、いろんな要素を組み合わせ考えていく方向に進めていったらどうか」(酪農経営)

「親が仕事を楽しんでいないと子供に継げというのは無理だと思う。儲からないと楽しくない。儲けている人は人の話を聞くし、指導も受けるが、逆の人は話を聞かないし堅い頭の人が多いような気がする」(酪農経営)

「空き予定農場の開示および担い手希望者への情報提供。私にとってはうれしい情報です。ぜひ成功させて下さい」(肉用牛経営)

「畜産支援センター的窓口を旧町村単位で設置し、畜産農家の高齢者支援や荒廃地への放牧に対する地権者と畜産農家との仲介等、多面的な指導を行い、過疎地の農地保全、環境整備に役立て畜産の指導に力を注いでほしい」(肉用牛経営)

さらに、肉用牛経営者からはヘルパー制度の充実について大変多くの意見が寄せられました。

肉用牛繁殖経営の経営主年齢が高齢化して

いる中、また、前項で回答してくれた、後継者の就農の阻害要因も含め、当面の担い手確保の緊急対策として肉用牛経営におけるヘルパー制度の整備は不可欠ではないかと思われます。

畜産法人労務関係
基本調査結果

この調査に回答してくれた法人の形態は、株式会社が6件、有限会社が17件、農事組合法人が8件、農業協同組合が2件の合計33件です。

畜種別件数は肉用牛が8件、養豚経営が5件、養鶏経営が19件で、酪農経営および肉用牛繁殖経営はみられませんでした。

なお、1戸法人は家族経営とみなし、本調査からは除いています。

回答してくれた法人の役員および従業員の構成は、常勤役員が2.5人、非常勤役員が0.6人、正従業員が20.7人で、平均9.6人のパートタイマー等の臨時雇用を行っています。

従業員の平均的な雇用年数は図6のように最も多いのが「6～10年」で42%の構成となっています。3年以下の比較的短期の雇用は

みられませんでした。

従業員の充足率について、「不足している」と回答した24%の回答において、その不足し

ている理由は、「従業員の定着率が悪い」、「募集に応募してくる人が少ない」との回答が過半数を占め、現場における従業員の安定的な確保の困難さを表

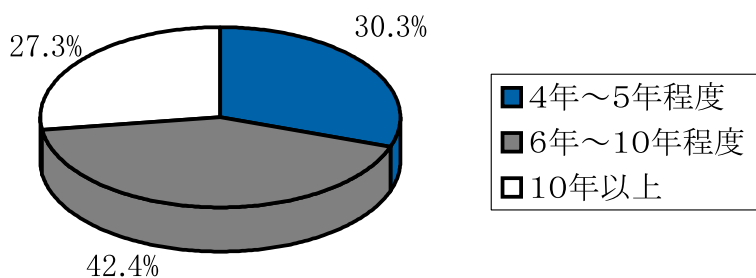
しています

外国人の雇用について、現状において外国人を雇用している経営が12%みられましたが、今後の外国人の雇用依存度は18%に増加し、従業員確保の困難さと裏腹に、外国人の雇用依存度は高まるものと推測されます。

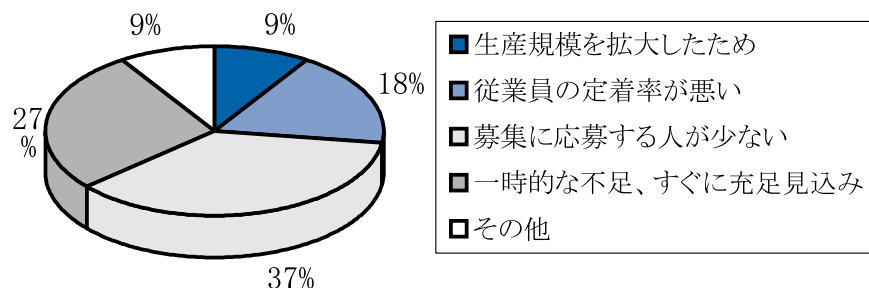
従業員の募集方法については、「ハローワークでの募集」が最も多く48%を占め、「縁故者に頼った募集」の両者で86%を占めています。

従業員の確保および雇用する際の課題について、半数近い経営において課題を有しています。その原因としては、「望んでいるような従業員が確保できない」が大きな要因になっており、雇用する側と応募する側のギャップが感じられました。

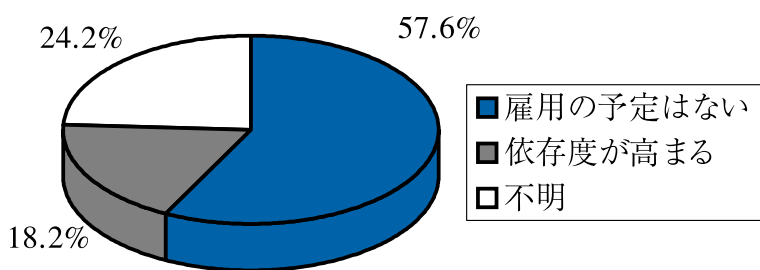
(図6) 平均雇用年数



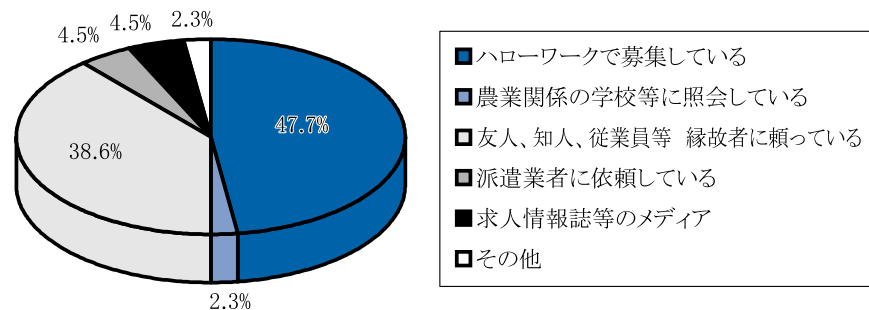
(図7) 不足している理由



(図8) 外国人の方の雇用依頼度



(図9) 募集方法



また、「募集しても申し込みがない」も20%みられ、従業員確保に対して有効的な募集方法のシステムづくりも必要ではないかと思われま

す。雇用する法人側の意見として、「農村人口の高齢化により若い従業員の確保が難しい」、「近い将来、労働力不足の不安がある。優秀で帰属心の強い人材を確保しないと企業力が衰えてしまう。結局、魅力ある企業体であることが不可欠である」との意見も寄せられています。

農業高等学校等在校生意向調査結果

この調査に協力してくれた在校生は74人

で、うち県外出身者が1人、男性が43人、女性が31人でした。

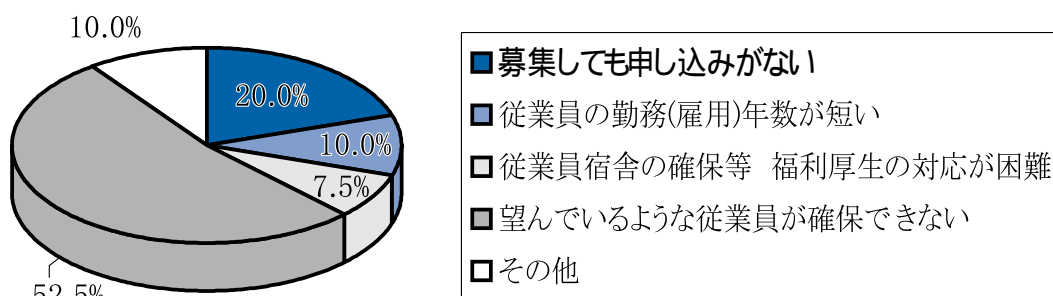
在校生のうち非農家出身が過半数の53%を占めています。農家出身は47%、畜産農家出身は24%でした。

高等学校等の卒業後の進路は、農業関係、農業関係以外も含めて大学への進学希望が48%を占め、昨今の高い進学意欲がうかがわれます。

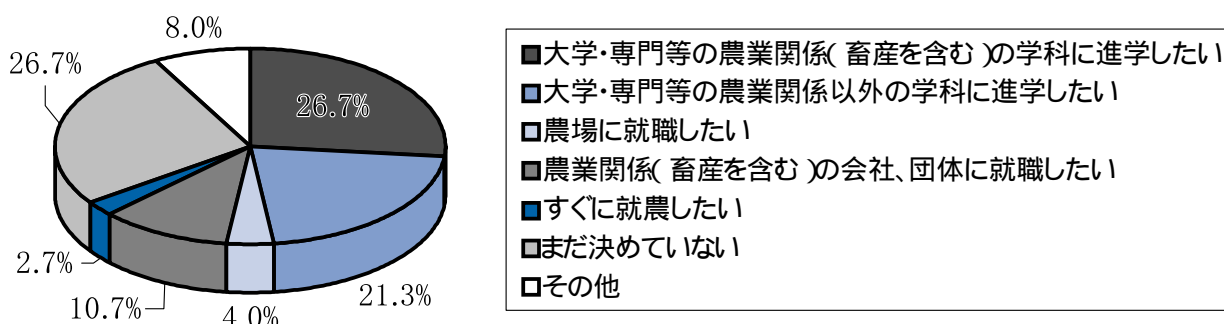
逆に、就農予定（農場への就職を含む）は7%に過ぎず、卒業後、担い手としての即戦力としては期待薄のようです。

しかし、進学希望者の大学卒業後の進路については、獣医師としての診療業務が17%、農業経営（畜産を含む）希望が28%と、畜産への関心は高いように思われます。

(図10) 雇用する際の課題



(図11) 卒業後の進路について



畜産に対するプラスのイメージは、各設問項目にまんべんなく回答が寄せられています。中でも「動物（生き物）を飼育するのは楽しい」、「自然の中で生活ができる」といった、いわゆる「癒し」の部分で44%の回答が寄せられました。

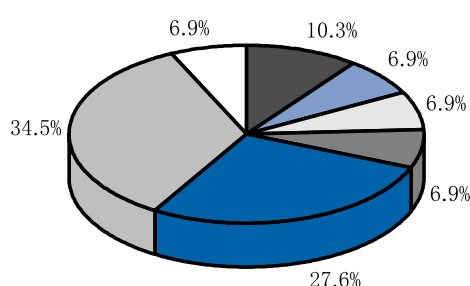
一方、マイナスのイメージは、「休みが取りにくい」への回答が42%と群を抜いており、

現実に畜産経営が置かれている現状と合致しています。

一般に思われているであろう「3Kといわれるように仕事がきつい」への回答は10%と意外に低い回答でした。

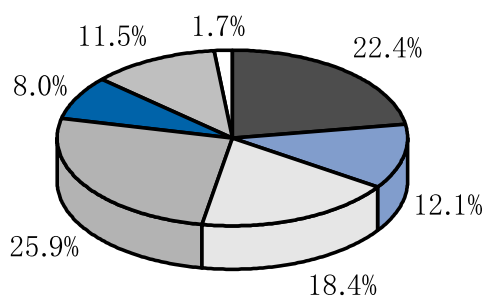
最後に、どのような対応が必要かを立場を変えてみると、担い手確保のための具体的な方策に関してさまざまな考えが寄せられました。

(図12) 大学卒業後の進路



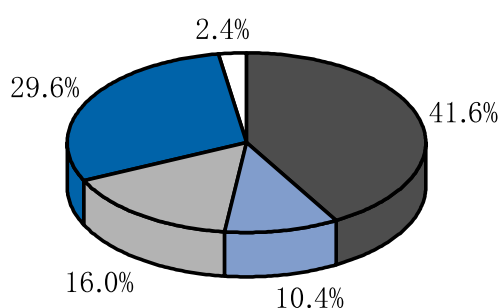
- 獣医師の資格を取得し、大家畜の診療に当たりたい
- 獣医師の資格を取得し、ペットの診療に当たりたい
- 農業関係の企業に就職したい
- 一般の企業に就職したい
- 農業経営(畜産を含む)を営んでみたい
- まだ考えていない
- その他

(図13) プラスイメージ



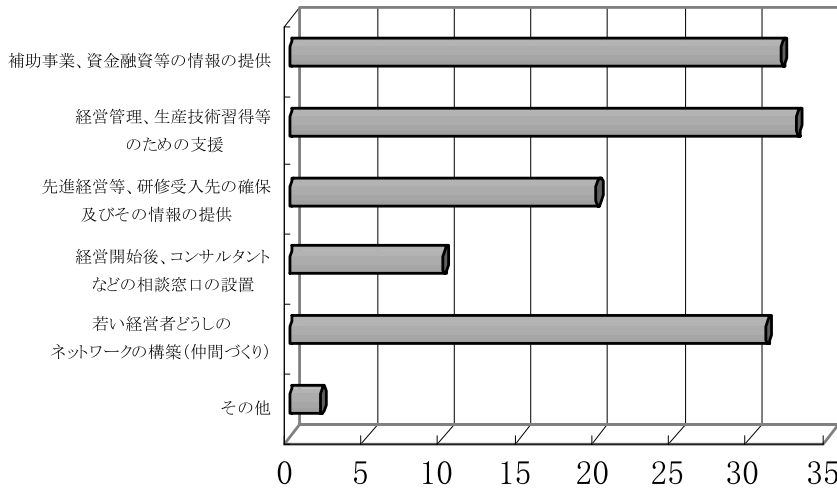
- 国民の食糧を生産し供給する大切な仕事である
- やり方次第では大きな収入を得られる
- 自然の中で生活ができる
- 動物(生き物)を飼育するのは楽しい
- サラリーマンではなく自分が経営者になれる
- 家族と一緒に働ける
- その他

(図14) マイナスイメージ



- 休みが取りにくい
- 3Kといわれるように仕事がきつい
- 日本の畜産のような海外からの輸入飼料に頼る経営では収入が不安定
- 経営開始に当たり、土地の取得、畜舎の建設等、大きな投資を必要とする
- その他

(図15) 担い手確保の方策



理等の支援、仲間づくり等の総合的な支援対策を具体化させていき、また、窓口から就農後の支援の一本化を図るなど、効率的かつきめ細やかなシステムづくりが求められます。

なお、この調査の詳細は本協会のホームページをみてください。

<http://hiroshima.lin.go.jp/>

(筆者：広島県畜産協会・経営指導部長)

今後、非農家も含め若い力の担い手を確保するには、彼らに対する情報の提供、経営管

月刊「畜産コンサルタント」8月号 発売中!



創刊以来40有余年、畜産総合誌として数々の話題、問題を提起をしてきました。経営、技術、流通、時事など、毎月特集を組み問題点の掘り下げと追求を行い、豊かな内容とわかりやすい情報を提供しています。

【カラーグラビア】 500号のあゆみ……編集部

【巻頭コラム】 創刊500号を迎えて……中瀬 信三

【500号記念特集】 21世紀を担う畜産経営

—地域資源に立脚したさまざまな畜産経営のあり方—

- ◇畜産経営—21世紀を生き抜くために—……小林 信一
- ◇稲作地帯における酪農経営……藤田 毅
- ◇都市近郊における土地利用循環型農業を目指して……八木原 毅
- ◇酪農家4戸で有限会社を設立、生産基盤の強化を図る……岩野 健一
- ◇乳牛の遺伝能力の向上を目指して……三好 孝行
- ◇地域資源との共存による経営の発展と安定……日高 郷士
- ◇放牧の活用と省力化によって大規模黒毛和種一貫生産を確立……佐藤 貢
- ◇超低コスト肉用牛肥育への挑戦……桑原 勝洋・真二
- ◇生産者と行政・関係機関が一体となった地域一貫体制の確立……白石 廣信
- 〈経営事例①〉地域内共同化による目標実現に向けて……加藤 健
- 〈経営事例②〉施策と両輪で進む肥育経営の今後の展開……野元 勝博
- ◇自信と責任をもてるブランド「かごしま黒豚」の生産を目指して……大窪 勝
- ◇父から譲り受けた地域が誇る「阿波尾鶏」……野々宮新民
- ◇たまごを通じた、しあわせづくり……滝沢 栄喜

【今月のコーナー記事】

- 「女性の視点」今、私にできる「食育」……安富 三代
 - 「法人経営へのチャレンジ」第4回 合同会社の運営……山崎 政行
 - 「畜産学習室」(5) 国際化の進展と畜産の展開①……近藤 康二
- *9月号の特集は「大家畜改良の今後のありかたⅡ」を予定しています。

購読料 年間 9,828円(送料とも)
 半年 4,914円(送料とも)
 1部 735円(送料84円)
 第三種郵便認可

お求めは、最寄りの畜産会・畜産協会、または下記へ必要事項(氏名(会社名)、住所、お届け先、必要部数、電話・FAX番号、メールアドレス等)をご記入のうえ、お申し込みください。

(社)中央畜産会 事業第一統括部(情報業務)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-26-5(虎ノ門17森ビル)
 TEL 03-3581-6685 FAX 03-5511-8205 E-mail book@cali.lin.go.jp URL <http://jlia.jin.go.jp/>

明日への息吹

石賀牧場の経営の歩み

—— 繁殖成績向上による経営の安定化 ——

築山 伴文

平成18年3月15日No.196、平成18年5月15日No.198に引き続き、岡山県真庭市で成雌牛60頭規模の肉用牛繁殖経営を行っている石賀博和さん、恵子さんの事例を紹介します。

今回も5月号同様、現地を訪れたときなどに聞いたエピソードや裏話を交えながら、特色ある経営の取り組みなどについて、少し詳しく紹介したいと思います。

経営を支える繁殖成績

石賀牧場の経営は、5月号で紹介したように、子牛の価格低下や事故等で苦しい時期がありました。しかし、そんな中でも繁殖成績（分娩間隔）は、常に安定した好成績を収めており、経営を支えた1つの要因です。

分娩後4ヵ月までに種付けを完了し、妊娠鑑定ができることを目標にしていますが、毎年大体9割ぐらいは、この目標が達成できており、平均分娩間隔12ヵ月台以下をキープしています。

その秘訣は、やはり放牧。それから、運動場での日光浴、フリーバーン牛舎での放し飼

い、日々の観察による適期授精、ラウンダーの利用などがあげられます。

現在種付けは、博和さんがすべて行っていますが、初めの10年ぐらいは授精師に依頼しており、実は就農時と同様（No.198参照）に自分からしようとは思っていませんでした。しかしある時期から、父親から、銭のかかった息子がうちの牛に種付けをしない、といわれ始めるようになりました。父親としては、息子を酪農学園大学に行かせ、その当時では破格の値段で育成しているという思いからなのですが、家の中でも徐々に不満が上がり、最後には、「銭を投資した価値がない」とまでいわれるようになり、いや応なく自ら種付けをすることとなりました。

ただ、そうはいつでもやればすぐにうまくいくというものではありません。やはり不安をかくせない恵子さんにも、「あなたの種付けでご飯が食べられるの？とても食べられないでしょうね。種が付くわけがないわ」といわれる始末。自分でも「そうかなあ」と思いながらも、「少しは自信があるぜ」といい返したところ、当然、「なんで？」と聞かれたので答えました、「4人子供をつくったから



(写真1) 運動場での決定的瞬間

なぁ」(5月号「表1:家族構成」参照)。

大変しかられましたが、こんなことがきっかけで種付けを始めました。

最初は、頸管も分からなければ卵も黄体も分からない状態、手探りでの種付けでした。しかし、何度もやっているうちに、少しずついろいろなことが分かってきて、もちろんいまま完璧ではありませんが、今でも、例えば写真1のように派手に乗り上がる牛をみつけた時には、朝みつけたら夕方付ける、夕方みつけたら翌朝に付けるというペースでやっています。

成績の向上は何といっても繁殖経営の最も重要な部分なので、他の部分で積極的に省力化を図り、できた時間と労力をここに十分使いたいと考えています。もちろん、頭数が多いため漠然と時間をかけるのではなく的を絞った観察に努め、適期授精を心がけています。

本人の自信と結果の関係は定かではありま

せんが、地元では、「石賀のところは種付きが良いそうだなぁ」という話があがるようになり、種の付かない牛を預かってほしいという人が現れるようになりました。博和さんは快く預かり、何日か飼養したところ、すぐに種が付いて返したそうですが、実はその初めて預けた人のお父さんが授精師をしていたことから、さらに噂が広まり、それから毎年3、4頭は、長期不受胎牛の受け入れ依頼があるとのこ

と。この際も、博和さんが自分の車で連れに行き、種が付いたらまた連れて行くということで、地域支援の一つとして活動しており、すでに5、6年続いています。

ちなみに、料金は基本的には無料。もしどうしてもということなら、「好いただけください」ということにしています。当然、「すまなかったねえ」の一言で済んでしまう場合もあるとのことですが……。

ラウンダーの活用

ここで、先に触れた秘密兵器のラウンダー(写真2)について紹介します。これは、淡路島の元畜産農家の方から3万円で譲ってもらったものですが、強制的に歩行させることができ、特に受け入れ牛の種付けに役立っています。



(写真2) まだまだ現役のラウンダー

酪農家の方が、共進会に向けた歩行訓練や体型づくりに活用しているのみかけますが、繁殖農家で所有している人は、本県ではわずかです。しかし、石賀さんを含めその所有者の繁殖成績が抜群に良いことから、地域肉用牛振興特別対策事業の生産性向上等施設整備事業と地元自治体の補助金等を活用して、今年度4台のラウンダーを導入する地域があり、当協会が本事業の事務を行っています。

一方では、近年の放牧などを推進していることから矛盾しているようにも感じられますが、放牧のできない地域もあり、また放牧を実施している地域でも県北部の積雪地帯では、放牧場にだせない期間がかなりあることから、今回の導入にいたっています。

導入効果、投資効果については、当協会としても調査したいと考えています。

いろいろな要因から現在の繁殖成績は良好

である石賀牧場ですが、実は問題もあって、繁殖牛舎に分娩房が5つしかありません。60頭規模ではかなり厳しい状況で、牛によっては、次の分娩が始まったら4日ぐらいで通路に寝るといこともあります。今のところ、大きな事故や病気もなくなんとかやっていますが、今後改善すべき最重要課題となっています。

受精卵移植と 間接検定の活用

石賀さんは母牛の改良には、積極的に取り組んできました。

その1つが、受精卵移植技術の活用で、農協職員の勧めにより、昭和57年ぐらいから取り組み始め、その後地域への普及にも尽力しました。

始めたころは、まだまだ外貌重視の傾向が強く、育種価という指標もなかったことで(本県の第1回育種価の公表は、平成5年3月)、良い枝肉成績が出たと分かって、それから受精卵を取って移植しようという考えは、すぐには理解されませんでした。

また、技術的な部分でも確立されていない面もあったのか、「あなたのところのあの牛は枝肉成績が良かったから卵を取ろう」「ETをしよう」と積極的に推進した時にでも、「ET

だか受精卵だかしてくれたけど、根こそぎ取ってしまうから次の種が付かんぞ」というような年配者もあり、随分誤解なども受けました。しかし、改良速度が早まり、自分のみならず地域全体の牛群の底上げをする上で、有効な手段だと考え、その当時から取り組んでいます。

もちろん石賀牧場では、データの出た優秀な牛から採卵を行い、恵まれたことに酪農地域なので、ジャージーやホルスタインの乳牛に移植したり、石賀牧場の中で、成績の悪い牛に受精卵を付けたりしています。

やはり優秀な母牛を増やしたいし、優秀な種雄牛の貴重な精液は大切にしたいと考えています。

ただ現在は、酪農家の間でIVFが主流になっており、乳牛への移植については中止しています。これも今後の課題の1つです。

平成18年4月現在、石賀牧場の育種価の判明している牛は50頭で、脂肪交雑のAランク（上位1/4）以上が23頭、枝肉重量Aランク以上が8頭、ロース芯面積Aランク以上が18頭と、優秀な牛群が整備できており、早くからの改良の成果が出たものと確信しています。

ちなみに、Aランク以上の中でも上位1%に当たる牛はわずかしおらず、仮に脂肪交雑、枝肉重量、ロース芯面積の3つの要素がすべて上位1%の牛となると県下でも1頭、脂肪交雑と枝肉重量に絞ってももう1頭しかないのですが、その両方が石賀牧場の所有牛です。

次に、間接検定に協力することで、改良に

つなげています。

石賀牧場の牛は初産については、全頭が県の間接検定牛の種を付けており、いくら優秀と思われる牛であっても、必ずそうしています。また、家畜改良事業団から依頼があれば、それも付けています。さらに2産目でも、この牛はどうかという牛については、また間接検定牛の種を付けています。当然、前年と2年目とでは牛も違い、どんなデータが出るか分からないので、このようにしています。

ここで、勝福茂号という県の間接検定牛での出来事を紹介します。

当然のことながら、検定牛となると農家での認知度は高いものではありません。当時、勝福茂号も同様に、勝福茂とはどんな牛なのだろうかと博和さん自身もあまり分からず、当然、平茂勝号の産子とも全く知らず、わが家の平茂勝の産子に付けてしまって、地元の人からも「石賀いうたら平茂に平茂を付けて大変なことだ」、「こんな交配で良い子が生まれるだろうか」といわれちょっと話題になりました。初産なのに大き過ぎる牛ができたら大変だと心配していたところ、普通の雌の子が生まれて、普通に大きくなって、いつも通り県の子牛市場に出荷したら、県内の肥育農家を買ってくれました。それでも他の牛以上に気になってしまい、どんなデータが出るのだろうかと思っていたら、なんと、雌でありながら枝肉重量が530kg、規格はA-5でBMSがNo.10、ロース芯面積は驚きの85cm²と想像もしない成績が出て、びっくりしたのを覚えています。

たまたまこの牛は、買っていった肥育農家

の所有牛の中でも形（なり）が良くできたということで、中国5県の枝肉共励会で大阪の市場に出品されて、血斑が少しあって2席になったということですが、34万円で売った子牛が、180万円ぐらいで売れて、かなりもうかったそうです（もちろん、肥育農家の人が）。このことが分かって、次の子牛市場の時に、その肥育農家の方に、「結構儲かったみたいですねえ」と話しかけたところ、「今日高く買うから我慢してくれ」といわれ、高いだけでなく2頭ほど余分に買ってくれたとのこと。

常に、肥育農家がもうかるような牛をつくらないといけないと考えており、今回は偶然もありましたが、いずれ自分の評価につながり、返ってくるわけですから、子牛市場で高く販売することだけを目指とせず、肥育農家に喜ばれ、後の評価につながる牛づくりを心がけています。

結局これは1つの例ですが、こういった成績も間接検定ですから確実に育種価の数値に反映されるということで随分と有利になり、経費の面からも有効なため、このような方法を取り入れています。

ちなみに、勝福茂号は、現在本県の基幹種雄牛となっており、今後ますますの活躍が期待されています。

石賀牧場の牛群整備に当たっては、自家産牛の保留を基本としています。現在活躍中の3系統に、今後期待の2系統を含め

5系統ぐらいで改良を進めています。

ただ、以前は外部からの導入牛もあり、岐阜県の高山まで買い付けに行ったことがあります。この時は、恵子さんに、「2日3日ないけどよろしくな」といい残して、同じ牛飼い仲間と2人で出かけたそうです。ただ市場などをみに行くだけなら乗用車でも良いところ、牛の運搬車で行ったから、「もしかして」と恵子さんも思っていたようですが、3日目に、実際牛を積んで帰ったからさあ大変。またまた大しかられです。でも恵子さんから、「いくらしたの」と聞かれて、「100万円しました」と答えたら、案外あっさり、「分かりました」といってくれて、ホッとしていたところ、何日か経って農協から高価な着物の請求書が届きました。「これは何?」と聞いたところ、「あなたと一緒にですから」と恵子さん。「やられた」そんな苦い思い出もあるそうです。

ちなみにこの牛、実際はその仲間と50万円



(写真3) 個体情報を記した看板

ずつ出し合って買って来ており、系統は第7系桜号に安福号です。初産を当然のごとく間接検定にしたところ、Aランクに評価されたため、2産目の平茂勝号の雌を仲間が保留、3産目の北国7の8号の雌を石賀牧場で保留、その間も卵を取ったりと、今後の貢献を大いに期待しているところです。何よりも大きな投資をした判断が正しかったことを、結果で証明していきたいと考える博和さんです。

データの収集、管理、分析

繁殖牛舎の壁には、1頭ごとの情報(名号、生年月日、個体識別番号、系統など)を書いた看板を付けています(写真3)。当たり前のことのようにですが、それを確実にすることが大切で、これに近々の種付け状況や分娩予定日、分娩日を、その場ですぐに書いています。忘れないためにも間違えないためにも、別に繁殖カレンダーも牛舎内に貼ってあり、そこにも記録しています。

また、この看板を取り付けるための2つの穴に赤色、黄色、白色の印をつけており、右側が枝肉重量、左側が脂肪交雑で、赤色がAランク、黄色がBランク、白色がCランクというように、育種価の成績が一目で分かる工夫をしています。

しかし、その時牛舎に書くだけではダメなので、家に置いてあるノートに記録しファイルリングしています(写真4)。また、このファイルには、登記書や登録書はもちろん、子牛市場



(写真4) データを蓄積したファイル

の出荷伝票も併せて貼り付けており、いつ誰にいくらで売ったかということも分かるようにしています。このことは、就農以来続けており、歴代全頭の個体データが管理できています。

そして、販売した子牛が出荷される頃になると、パソコンを使って牛の個体識別情報検索サービスを活用し、販売されていたら直接肥育農家へ電話をするなどして、いち早くデータの収集を行い、自ら分析し、次への対応を図っています。

実はこのファイルの整理を行うのは、繁殖状況の記録を除き、毎年1月の2日、3日に年始の行事として、箱根駅伝をみながら、スルメをかじりかじり、酒を飲みながらしているとのこと。ただ、例年であれば大体この2日間で完了するそうなのですが、今年の駅伝は、途中で脱水症状の選手が出るなどの波乱があり、順位も目まぐるしく変わるなど、テレビに夢中になってしまい、結局4日間ぐらいかかって仕上がったそうです。

(筆者：岡山県畜産協会・副調査役)

ご利用ください！中畜の新刊図書

日本飼養標準・豚（2005年版）

（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 編

1998年版以来、7年ぶりの改訂となる2005年版は、子豚、肥育豚、繁殖雌豚のエネルギーおよびアミノ酸要求量の見直しを行うとともに、食料自給率の向上を目的として、「食品残さの飼料化」について新しく項目を起こしました。さらに、養分要求量設計プログラム・飼料設計体験プログラムをCD-ROM化し、栄養素要求量の算出および配合設計を容易に行えるように内容の充実を図っています。

A4判132ページ 価格・税込2,415円（送料340円）



女性の視点 ～畜産に携わる女性からのメッセージ～

（社）中央畜産会 編

同書は、昨年8月に発足した畜産に携わる女性のネットワーク「全国畜産縦断いきいきネットワーク」の設立記念誌として、これまで月刊誌『畜産コンサルタント』で連載した「女性の視点」を再編集したものです。「女性の視点」は、畜産に携わる女性が、それぞれの人生観や畜産経営に対する思い、取り組みなどを寄稿したもので、単行本『女性の視点』には、そのうち51名の畜産女性たちの原稿を収録しています。

B5判138ページ 価格・税込1,500円（送料290円）

平成18年版 畜産経営の動向

農林水産省生産局畜産部畜産企画課 編

近年、畜産を取り巻く状況はめまぐるしく変化しており、最新の畜産動向を把握し、経営に役立てることは重要な課題となっております。同書は、わが国の畜産に関する生産から流通の動向、ふん尿処理などの環境保全や各種資金・融資制度など、最近の統計資料を中心に、最新の畜産動向についてとりまとめています。生産者はもちろんのこと、行政・研究機関など、畜産関係者必携の1冊です。

B5判442ページ 価格・税込2,100円（送料340円）



◎お求めはもよりの畜産会または下記へ

ご注文はFAXまたはEメールで。書名、冊数、お名前(会社名)、お届け先、電話番号を明記のうえご注文ください。
ご注文承り後に郵便払込用紙を同封しお届けいたします。

（社）中央畜産会 事業第一統括部(情報業務)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-26-5(虎ノ門17森ビル)

TEL 03-3581-6685 FAX 03-5511-8205 E-mail book@cali.lin.go.jp URL http://jlia.jin.go.jp/

あいであ&アイデア

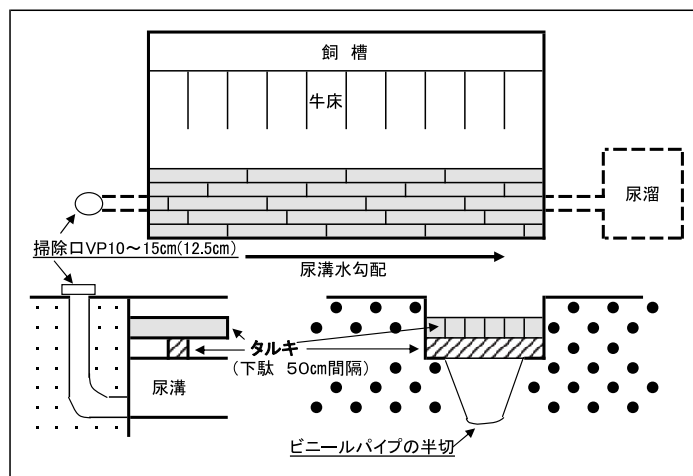
垂木を使った牛床のふん尿分離

清水 誠

経営情報No.191で、山口県秋芳町の酪農経営者・土山真作さんを紹介しましたが、その中の、「牛床が短い、バークリーナーなしで尿溝があるだけ。牛を導入した後、床が濡れた状態が続く。オガクズも十分量が確保できないという状態で困っていると、酪農機械メーカーの人から、尿溝を垂木でふさぐ方法を教えてもらいました」という内容について中央畜産会に問い合わせがあったそうです。実際の提案者からもう少し詳しい資料をもらいましたので、再度、紹介します。

土山さんの牛舎の構造は、図 - 1 のようになっています。尿溝を強調していますので、実際のイメージとは違います。尿溝の構造はシンプルで勾配があって、尿溜に流れるようになっています。反対側には掃除口があります。溝は2段構造になっており、両サイド5cm程度の支えがあるので、ふつうはそこに鉄板などを敷き、下の溝を尿がちょろちょろと流れるよう

図 - 1 土山牛舎の構造と垂木設置の概略



なっています。かつては、尿とふんが混じり合った、おぞましい混合物が流れ、尿溜もふたを開けると息ができない状態の経営が多かったようです。いっぱいになればバキュームカーなどで吸い出し、草地へ散布ということになりますが、その時は、雨が降る直前に...という人が少なくなかったようです。

土山さんは、図 - 1 の下部分にあるように、50cm間隔で垂木の下駄を敷きます。垂木については、アメリカ松の規格では、幅10.5cm、厚さ3cm、長さ3m、または4mがあるそうです。それを下駄の上に溝にぴったり入るように敷き詰めます。下駄は木の繋ぎの下にも置くようにします(図のようには並べない方がよいですね)。尿溝の底には、ビニールパイプの半切れなどを敷くと流れが良くなるそうです。

土山さんの場合は、牛床が短いという欠点を補うために、床とフラットになるように設置し

ましたが、これは特殊な場合です。実際に牛はのんびりと横になり、尿は澄んだ状態で尿溜に分離できますが、ふんで汚れる範囲も広がったので、土山さんのボロだし作業の手間は増えたそうです。また、1～2カ月に1回は、垂木を持ち上げ、ヌルヌルになった裏側を水洗いしていたそうです。これも手間がかかります。

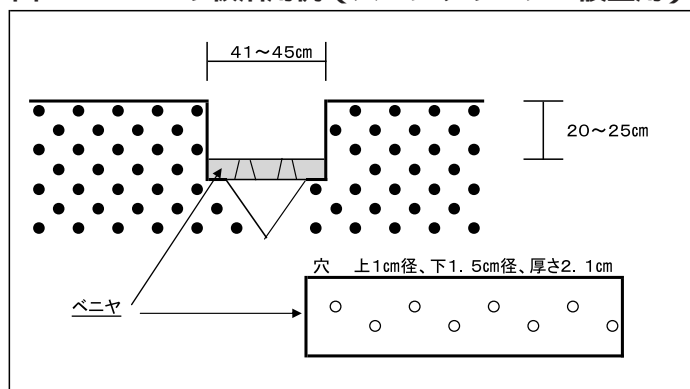


オガクズが十分に確保できるように

なってからは、垂木の掃除はしなくなりました。オガクズが吸収する割合が多くなっているのは事実ですが、それでも尿溜に常時尿が溜まっている状態なので、尿溝にも常に尿が溜まっていることとなります。しかし、この垂木は当初設置してもう3年になります。それでも腐るところか、黒光りがしています。木は、常に濡らした状態の方が長く保てるようです。船とおなじ原理です。

もらった資料にはパーンクリーナーでも活用できる方法が示されていました。図-2がそうです。パーンクリーナーの場合、下には鉄板が使っていると思いますが、ベニヤ（厚さ2.1cm規格）を使って、上下で径の異なる穴をあけることで、チェーンが通った後、ふんの切れがよくなり穴が詰まりにくいふん尿分離ができるそうです。もちろん垂木でも同じです。しかも、チェーンを回す時に音が静かなので、牛にとっても酪農家にとっても良いようです。

図-2 ベニヤ板活用例（パーンクリーナー設置用）



環境の現地指導では、牛舎から出るときのふんの水分が課題となるケースが多く見受けられます。牛舎の段階でできるだけふん尿を分離することで、たい肥製造もかなり楽になります。古い牛舎でもちょっとした工夫でふん尿分離ができる知恵です。コストも手間もそんなにかかりませんので参考にしてください。

（筆者：山口県畜産振興協会・技術主任）

あいであ & アイア